

## 木々の会 2025年度活動計画

### 【基本方針】 31年目に、ビジョンを描く

1980年代の初め、横浜に地域作業所が誕生した頃、「居場所」や「行き場」がほしい、周囲や社会との繋がりの中で生きていと願う人たちの必死の求めがありました。それに何とかして応えようとするエネルギーが社会や行政を動かし、補助金の仕組みや制度がつくられていきます。

年月が流れ、制度やサービスの種別が多岐にわたり量的にも増えました。仕組みが非常に複雑化しています。運営側は求められる条件に適応することに汲々とせざるを得ず、結果として〈受け身〉になり、何が大事な事かを見失うことになりがちです。あらためていま自分たちの足元を見直し、ねらいを定め、中心軸を取り戻すことが必要ではないでしょうか。

様々な状況が変化したとはいえ、今もお病院から帰ってこられない長期入院の方たちがおられます。また、社会との繋がりをなかなか持てず孤立する人たちの存在があります。そうした当事者の声に耳を傾けることが変わらぬ出発点です。

一方で、加速する高齢化とこれに伴う困難は、メンバー・パートナーや会員などの立場を超えた自分事になっています。あらためて私たちがどこへ行き着きたいかを挙げるならば、障害の有無を超え世代を超えたあり方をぜひ見つけたい。それが今日を生きる力の源(もと)になると思えるからです。

日常の一つ一つに大事に向き合い、これまで培ってきた「木楽舎」「むくどり」「あかしゅ・いさな」の魅力をさらに磨き、活用・発信もしながら、次へのビジョンを描きこんでいきましょう。

#### ① 身近なできることをやってみよう

木々の会ではかつて「地域で住まうことの支援」を共に考える中で、「民家・二俣川ハウス」をはじめ、様々なことに実験的に取り組みました。暮らしの中の小さな交流の場やちょっとした手助けでも意外に大きな意味を持ったり役に立つことがあります。できそうなことからまずはやってみましょう。

#### ② あらたな「協同」のかたちをつくろう

木楽舎を開設した時にめざした「協同」はまず、日中活動の場の協同でした。2つで1つとして交流・連携しようというあり方です。そしてもう一つはメンバーとパートナーの協同でした。皆メンバーであり、パートナーである。同等の工賃をもらって活動しようと仕組みを創った。その中に「リサイクル活動」や「みんなの会」がありました。そうした成り立ちを知り、これからの話を皆でしていきましょう。

又、夜間や休日のこと、住まいのことも含めた新しい「協同」の中味を考えて創っていきましょう。

#### ③ 会の運営のパワーアップを

会の運営を円滑に、かつパワーアップするにはマンパワーが重要です。実務の中心であり対外窓口でもある事務局や本部の働きをさらに充実させると同時に、協力いただける会員や人々との接点を広げることに関わる人の裾野を広げ、層を厚くしていきましょう。